

Rapport

2020
Number
110

多摩大学 | 広報誌 |

Vol.110 Contents

多摩大学後援会員の皆様へ	02
2019年度 就職状況	02
多摩地域の名所・旧跡⑦【よこやまの道】	02
令和元年度 学校法人田村学園概要	03
感染防止と教育の両立を模索	03
学生コラム「充実した大学生活」	04

多摩大学後援会員の皆様へ

多摩大学では在学生のご父母の皆様と教職員を会員とする後援会を組織し、頂戴した後援会費を原資として学生の利便性向上、就職支援、資格取得支援など有効に活用させていただいています。また、ご父母の皆様と教職員の相互の親睦を深め、連携を密にするためのイベント等も開催させていただいています。

しかし令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が発令されるなど、これまでに誰も経験したことのない事態となっています。これにより残念ながら後援会活動も自粛せざるを得ない状況が続いてまいりました。

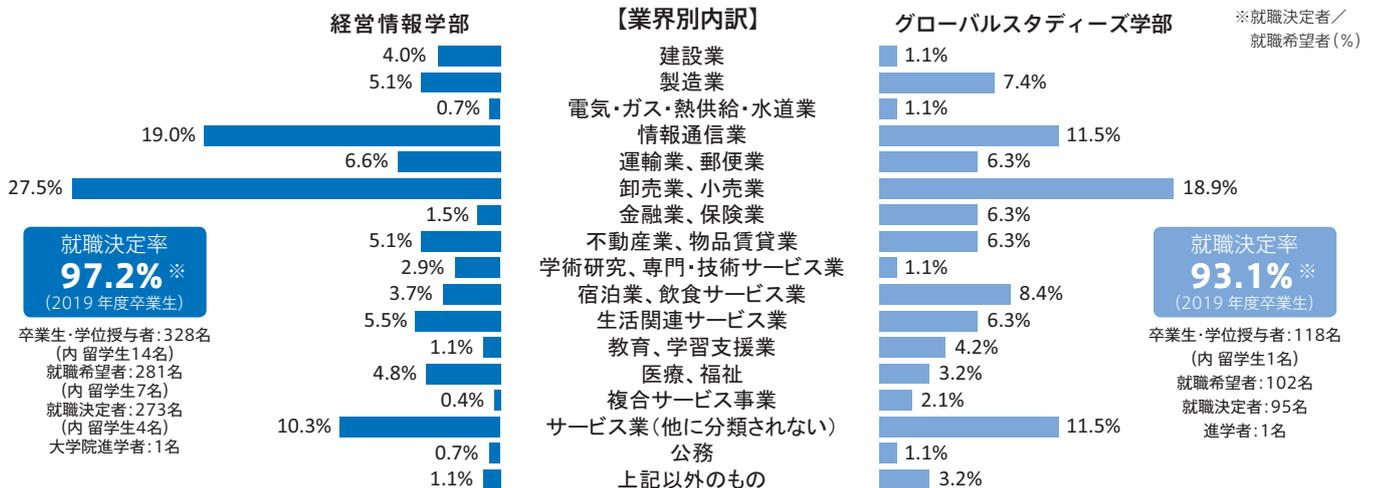
6月から大学では一部の授業で対面授業が再開され、秋学期の全面対面授業化に向けて教職員が一致団結して準備を進めています。後援会活動も秋学期に向けて再開すべく準備を開始いたしました。今後、役員の皆様とご相談させていただきながら、学生のためになる企画を実行してまいります。今後とも会員の皆様のご理解とご協力を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

キャリアサポート

多摩大学キャリア支援課では、学生一人一人にきめ細かなサポートを行っています。経営情報学部ではゼミ担当教員とキャリア支援課職員が常に情報を共有しながら、各学生の個性に合った指導をしています。定期的に就職に関する父母懇談会を開催し、ご家族にも就職活動へのご理解をいただくことで、就職活動に取り組みやすい環境を整えています。また、グローバルスタディーズ学部では、国内外で豊富なビジネス経験を持つ教職員が、グローバルに活躍できる人材育成を目標に少人数の対話形式の授業+キャリア支援講座+インターンシップなどのキャリア支援を実践し、全学年を通して学生の希望・適性・個性・能力等にあったアドバイスを行っています。

2019年度 就職状況

※2020年5月1日現在



2019年度卒業生就職先はこちらをご覧ください。

○経営情報学部 <https://www.tama.ac.jp/career/smis/jisseki.html> ○グローバルスタディーズ学部 <https://www.tama.ac.jp/career/sgs/005.html>

地域再発見

多摩地域の名所・旧跡 ⑦

よこやまの道 (多摩市)

万葉集にも詠われた多摩丘陵尾根筋の散策路

多摩丘陵は関東地方の南西部、多摩川と境川との間に広がる丘陵で、北西は高尾山麓から南東は横浜市まで続きます。横に長く連なる山々を古くは「多摩の横山」「眉引き山」とも呼んでいました。この多摩丘陵の尾根筋に位置するのが「よこやまの道」です。

赤駒を山野に放し捕りかにて 多摩の横山徒歩ゆか遣らむ

万葉集 (巻二十・四四一七) 豊島郡の上丁 棕椅部荒虫が妻 宇遲部黒女

「赤駒を山野の中に放牧して捕らえられず、夫に多摩の横山を歩かせてしまうのだろうか。」

これは国防のため遠い北九州で兵役に就く夫との別れを惜しむ防人の妻の歌です。「よこやまの道」の名称は、この万葉集の「横山」に由来します。都市機構 (旧都市基盤整備公団) により整備された散策路で、多摩東公園 (丘の上広場) から長池公園手前までの約 10 km、山路や既存の道路で構成されています。ルート上には雑木林や展望広場などもあり、里山の自然や古道跡、ニュータウンの眺望などを探訪しながらウォーキングを楽しむことができます。

参考資料: 「多摩よこやまの道」、都市機構 (旧都市基盤整備公団)・多摩市発行、2006年

※多摩大学において「多摩地域」とは、多摩川と相模川に挟まれた大きな三角地帯、さらに三浦半島なども含めたエリアを広く多摩地域と捉えています。



よこやまの道と道標(左)

令和元年度 学校法人田村学園概要

多摩大学の経営母体である学校法人田村学園は、私立学校として積極的に情報開示をしております。最新の田村学園概要は、以下のとおりです。

(学校法人 田村学園 貸借対照表)

貸借対照表

令和2年3月31日(令和元年度)

(単位:百万円)

資産の部	前年度末	本年度末	増 減
科目			
固定資産	24,419	24,316	△ 103
有形固定資産	20,891	20,693	△ 198
土地	13,015	13,015	0
建物	6,892	6,687	△ 205
その他	984	991	7
特定資産	2,092	2,192	100
第2号基本金引当特定資産	2,000	2,100	100
第3号基本金引当特定資産	92	92	0
その他の固定資産	1,436	1,431	△ 5
電話加入権	5	5	0
その他	1,431	1,426	△ 5
流動資産	4,186	4,834	648
現金預金	3,722	4,405	683
その他	464	429	△ 35
資産の部合計	28,605	29,150	545
負債の部			
科目			
固定負債	428	452	24
長期借入金	1	1	0
退職給与引当金	427	451	24
流動負債	1,258	1,314	56
短期借入金	1	1	0
前受金	850	800	△ 50
その他	407	513	106
負債の部合計	1,686	1,766	80
純資産の部			
科目			
基本金	33,644	33,900	256
第1号基本金	31,200	31,356	156
第2号基本金	2,000	2,100	100
第3号基本金	92	92	0
第4号基本金	352	352	0
繰越収支差額	△ 6,725	△ 6,516	209
翌年度繰越収支差額	△ 6,725	△ 6,516	209
純資産の部合計	26,919	27,384	465
負債及び純資産の部合計	28,605	29,150	545

(令和元年度 学校法人 田村学園 計算書類 抜粋)

(資金収支)

(資金収入)

(単位:百万円)

学生生徒等納付金収入	3,965
手数料収入	98
寄付金収入	61
補助金収入	1,163
資産売却収入	0
付随事業・収益事業収入	168
受取利息・配当金収入	51
雑収入	89
その他	252
前年度繰越支払資金	3,722
合計	9,569

(資金支出)

人件費支出	2,986
教育研究経費支出	1,225
管理経費支出	479
借入金等利息支出	0
その他	474
翌年度繰越支払資金	4,405
合計	9,569

(事業活動収支)

(単位:百万円)

学生生徒等納付金	3,965
手数料	98
寄付金	60
経常費等補助金	1,150
付随事業収入	168
雑収入	93
教育活動収入合計	5,534
人件費	3,011
教育研究経費	1,605
管理経費	508
その他	1
教育活動支出合計	5,125
教育活動収支差額	409
教育活動外収入	49
教育活動外支出	0
教育活動外収支差額	49
経常収支差額	458
特別収入	15
特別支出	9
特別収支差額	6
基本金組入前当年度収支差額	464
基本金組入額	△ 255
当年度収支差額	209
前年度繰越収支差額	△ 6,725
基本金取崩額	0
翌年度繰越収支差額	△ 6,516
(参考)	
事業活動収入合計	5,599
事業活動支出合計	5,135

(令和2年度)

・学生・生徒等(人)	田村学園全体	4,852
	多摩大学 学部	
	経営情報学部	1,478
	グローバルスタディーズ学部	665
	多摩大学 大学院	121
	高校(2)・中学(2)・幼稚園(3)	2,582

・キャンパス面積(m ²)	田村学園全体	115,932
	多摩大学	44,913
	その他	77,019

以上、令和2年5月1日 現在

感染防止と教育の両立を模索

多摩大学では、6月より段階的に対面授業を再開してきました。

寺島実郎学長直轄のインターゼミ(社会工学研究会)では、対面講義を主にオンラインでも受講可とし、段階的選択性により開講しています。

春学期はオンラインのみで授業を継続する大学が少なくない中で、本学はオンライン授業の問題点も確認しながら、次のステップに進んでいます。

対面講義は教員とのコミュニケーションだけではなく、実際に他の学生が何を考え、どのような研究をしているのかを学生自身が目線に入れることで、課題解決に向かう意識を共有することに価値があることを再認識しました。

引き続き、最大限の感染対策に配慮しながら、全力を挙げて教育パフォーマンスの向上に取り組んで参ります。



充実した大学生活

グローバルスタディーズ学部 4年 西川 貴洋

私はこれまでの大学生活で、様々な活動に参画してきました。学生会組織の活動（執行部や学園祭実行委員会、サークルなど）、留学、ゼミ、I Love 湘南 Project（藤沢市や藤沢市観光協会と連携した地域活性化プロジェクト）などです。その中でも「学園祭実行委員会」と「堂下ゼミ（藤沢市を中心とした地域の活性化がテーマのゼミ）」の2つは、私の大学生活において影響が大きいものでした。

まずは学園祭実行委員会についてです。私は1年生の春学期、友人の誘いで学園祭実行委員会に入りました。当初は何の目的もなく、頼まれた仕事を行っているだけでしたが、次第に多くの人と関わることや協力して作業することに喜びを感じるようになりました。実行委員でなければ関われない人と出会えたり、それがきっかけで仲良くなれたり、初めて経験できることが沢山ありました。ここで一緒に活動した仲間は、その後も私に影響を与え続けてくれています。

2年次には、学園祭実行委員長を務めました。実行委員長を経験したことで、自分自身を見直し成長するきっかけとなりました。当時私は、「リーダーは自分が中心となって先導していかなければいけない」と思っていました。そのため私が指示を出し、その通りでなければ手を加えるという、言わば私の理想に近づけるような方法をとっていました。また愚かにも他のメンバーに対しては無意識に、「実行委員はリーダーの指示に従って当たり前」という態度で接していました。理想の学園祭をつくることに必死で、周りが見えていなかったからです。しかし、それらが間違いだと教えてくれたのは学園祭メンバーと、当時 Realize（英語教室の企画・運営を主としたサークル）の代表だった先輩でした。メンバーから直接言われたわけではありませんが、私が自己中心的な行動をしていることに彼らは態度で示してくれました。彼らのやり方で仕事を進め、私が中心でやるのが正しいとは限らないことを教えてくれました。また、先輩からは「メンバーが指示に従って当たり前」という態度を厳しく指摘されました。その時言われたことは今でも心掛けています。当時のメンバーや先輩には相当な迷惑をか

けていますが、それでも未熟な自分に最後まで付いてきてくれたこと、サポートしてくれたことに対して「感謝」の言葉以外見つかありません。

3年次から所属している堂下ゼミでは、私が今まで経験したことのないチームの雰囲気味わうことができました。各々が自由に活動していて、とてもアットホームな雰囲気です。昨年、大学対抗のプレゼン大会があり、我々は2チームでの参加となりました。私のチームでは、先輩・後輩関係なく個人が主役となりプレゼン作りを行いました。チーム目標等は決めていなかったのですが、自然と全員が同じことを考えていたことにとっても驚きました。これは、学園祭実行委員長を務めていた際に理想のチーム像として描いていたものに非常に近いです。ゼミの誰もが意図してそのようなチームや雰囲気づくりを行っていたわけではないと思いますが、昨年の堂下ゼミメンバーだからこそできたものなのではないかと思います。今年度は一味違う、メンバーにとって居心地の良いと思えるようなチーム・雰囲気を作っていけたらと思います。

冒頭で様々な活動に参画してきたと述べました。私はその全てにおいて全力で取り組んできました。その結果、わかったことがあります。それは、全力で取り組めばすべて自分の糧になるということです。多くの方は頭で理解できているかもしれませんが、身に染みてそれを理解している人はそれほど多くはないのではないかと思います。例えば、自分の苦手なことや面倒だと思っていることはどうでしょう。何かと理由をつけて逃げているのではないのでしょうか。私がこれまで関わってきた学生の多くはそのような傾向があるように思います。そのような学生を見る度、勿体ないと思ってしまいます。自ら可能性を潰しているからです。自分のできることや興味のあることをやるのに批判するつもりはありませんが、苦手なことや面倒だと思っていることにも挑戦してほしいと思います。はじめは上手くいかなくても全力で取り組んでいけば必ずどこかで糧になります。多くの学生がそうなることを望むばかりです。



学園祭の仲間



学園祭の仲間



堂下ゼミメンバー